

会議録

会議の名称	令和5年度第10回教育計画策定懇談会
開催日時	令和5年10月10日（火曜日）午後2時から
開催場所	西東京市役所イングビル 第3・第4会議室
出席者	<p>【委員】種村座長、竹之内委員、瀬沼委員、小林（宏）委員、小林（正和）委員、西原委員、鈴木委員、荘委員、竹田委員（欠席）川原副座長、落合委員、澤井委員、菅野谷委員</p> <p>【事務局】松本教育部長、飯島教育企画課長、宮川教育部主幹、近藤学務課長、田村教育指導課長、三田教育部主幹兼統括指導主事、田中教育部副参与兼教育支援課長、吉田社会教育課長、福所公民館長、徳山図書館長、佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、望月教育企画課企画調整係主任、今中教育企画課企画調整係主事、神戸教育企画課企画調整係主事（欠席）清水教育部特命担当部長</p> <p>【傍聴人】2人</p>
議題	<p>議題1 次期教育計画素案について</p> <p>議題2 パブリックコメントについて</p> <p>議題3 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 西東京市教育計画素案</p> <p>資料1-1 素案修正事項について</p> <p>資料2 西東京市教育計画（令和6年度～令和10年度）パブリックコメントについて</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><開会></p> <p>○事務局 前回会議録（案）について、御意見があれば伺う。</p> <p>○事務局 会議録4ページ、下2行の「学校の環境整備」を「学校の環境に関する授業」に修正させていただきたい。それに対する公民館での環境問題を取り扱う公共団体につながる事ができる。</p> <p>○事務局 前回会議録（案）について、この内容でまとめることにする。</p> <p>議題1 次期教育計画素案について</p> <p>○事務局 （資料1及び資料1-1について説明）</p> <p>○座長 素案の修正について、説明があった。御意見を伺う。</p> <p>○G委員</p>	

第2章基本方針1「子どもの「生きる力」の育成に向けて」内、「マルチメディアデ
イジーの活用として、「まちなか先生」の事業を通じて児童・生徒及び教員に周知を図
ることで、読み書きが困難な児童・生徒の学習支援につながるよう取り組みました。」
とあるが、この内容について説明してほしい。

○事務局

昨年度、学校の授業内で事業を実施した際に「ハンディキャップサービス」の中に
マルチメディアデイジーも含まれ、借りる本だけではなく、いろいろなもので本を読むこ
とができるということを周知した。

○G委員

「まちなか先生」は図書館職員なのか。

○事務局

図書館職員である。

○D委員

「マルチメディアデイジー」とは何なのか教員は知っていると思うが、教育計画を初
めて見る市民にとっては解説があっても良いと思う。分かりやすくするためにどのよう
に表記するのか。

○事務局

追って注釈を加える。

○座長

資料1-1 No.13について、ウェルビーイングの文言は令和5年2月に次期教育振興
基本計画についての答申において出たものだと理解していたが、令和3年度の中央教育
審議会の答申でもウェルビーイングのことが出てきているため、注釈に加えるなら表記
に留意してほしい。

注釈については、一般の方が目を通した時に、分かりづらい言葉については基本的
には注釈を入れるというコンセプトで作成を進めていくことでよろしいか。

○事務局

現行計画のような形で各事業ページの注釈や資料編の用語解説において整理する。

○I委員

アンケート調査については、コロナ禍での調査ということもあり、子どもが「悩んだ
時に相談できる人がいるか」というところの数値が低かった。教育計画もそうである
が、早速、校長会でも共有しながら、子どもの相談ということについては対応してい
きたい。

第2章以降については、6月、7月、8月の3回で素案をまとめていただいた。計画
でそこまで具体的に載せることは難しいが、バランスを取っていただきながらまとめ
ていただいたと思う。これを踏まえて、それぞれの年度で具体的な取組、予算編成も含
めて一緒に考えていけたらと思う。

○G委員

素案の中にある、西東京市教育委員会の教育目標について、教育は自らが主体的に学んでいろいろなことを自分たちのできる範囲で学んでいく、そういう市民をつくっていくという、滑らかな方向性にあるにも関わらず、「貢献しよう」や「規範意識のある」など、硬直した言葉が教育目標に出ている。今後、教育委員会でもどのような市民像を求めていくかという議論をしていただけるとありがたい。

○D委員

いろいろな形で教育DXを活用しつつ、生身の人が生身の人の関わりを持つ中で子どもは育っていくと感じているので、そこが教育計画の中に反映されて現場にも伝わっていくと良いと思っている。学校の教室が足りないと感じているのでそこが良い形で5年後、その先につながっていくと良いと思う。

○E委員

不登校の子どもたちと触れ合う機会が多い中で、まだ地域の中で大人たちとつながっていない子どもたちが多いと感じる。また、大人側も不登校という状態に苦しんでいる方々が多くいる。大人自身が息抜きをしたり楽しんだりということが今の時代難しいと思っている。そのつらさが子どもたちにも影響していると思うと、大人自身も息抜きができる場を地域の中で用意しつつ、子どもたちもいろいろな地域の方とつながっていくような地域になっていけばとてもうれしい。

○C委員

教育計画策定懇談会に参加させていただいて感じるのは、業界から見えないものがたくさん見えているということである。組織の中で、教育に携わる活動は大きな力を借りてやっているのだとつくづく感じた。幼保小連携があるが、幼稚園としても、地域の力はこれからますます必要になる。地域とのつながりや今まで引き継いできた歴史も踏まえた上で、若い世代がしっかりと考えていかなければならないと感じている。

○B委員

人それぞれ成長するスピードは違うということ、多様性ということが言われている中で、誰一人取り残さずに社会として成長させていくということが、今後、求められることなのだろうと感じている。その一端をこの教育計画の中に入れられたのではないかと思う。また、不登校の子どもについて学校の中にリモートを活用しながら学校の雰囲気味わってもらい、学校にいつか来ようかといった考え方に変わっても良いと思う。いろいろなやり方がある中で、この先5年、更に10年20年とあるので、そこに向かってのまず一歩を踏み出すことができればと思う。西東京市発信で他のところにも波及していくようなこともあれば良いと思う。

○F委員

教育計画に基づいて、実際に子どもたちとかかわる中で動いていけたらと考えている。学校間の格差や施設によっての格差がなく、どんな子どもでも遊び場開放で遊べるというようなことや、いろいろなイベントを企画、開催する中で、参加して楽しかったと思って帰ってもらい、その子どもたちが大きくなった時に、昔このイベントに参加し

て楽しかったと思える良い思い出が残るように、子どもたちを育てていけたらと思っている。

○A委員

公民館の保育付き講座に何度も参加している。子どもたち自身が社会に出たり、主婦自身も社会に戻るといふ学びをたくさんさせてもらったのが公民館だった。無料で受けることができるのは素晴らしい時間だったと思う。いろいろな人に参加してほしいと思っている。

○座長

教育計画を策定する時に、データの根拠は必要となるが、解釈によってデータの捉え方が変わってくる。データの根拠を単純に見るのではなく、どのような理由でこのような結果になったのかということをよく理解することで、具体的につながる対応ができていく。丁寧に対応していることを市民にどう伝えていくかが大事であり、教育計画も文言が分からないものは誰が見ても分かるようなものにしていかなければならない。前の教育計画ではこうしていたからこうするという回答ではなく、これはこのような考えをもって対応すると回答することが大事である。

その時その時代の流れを見て、修正するべきところは修正していくことが必要であると思う。子どもたち、市民のために、教育計画が実のあるもの、計画は計画でありながら柔軟に対応できるようにしていただくとありがたいと思う。

議題2 パブリックコメントについて

○事務局

(資料2について説明)

○座長

パブリックコメントについて、御意見があれば伺う。
ないようなので、以上で議題を終了する。

3 その他

○事務局

素案について、いただいた意見を踏まえ調整をさせていただいたものを、パブリックコメント前の素案としてメールで送付する。それを基に、今後市民参加条例に基づく市民意見提出手続きを進めさせていただく。

<閉会>